

家好き芸人

アンガールズ・田中が行く!

建築家の 自邸探訪

家好き芸人、アンガールズ・田中さんが、個性豊かな建築家の自邸を突撃取材!今回は、28歳のときに自身が設計したビルをリノベーションした佐竹永太郎さんのお宅です。

アンガールズ 田中卓志 TAKUSHI TANAKA

1976年広島生まれ。広島大学工学部第四類建築学部卒業。お笑いコンビ「アンガールズ」として活躍中。大学では建築の構造を研究し、得意分野は日本建築。現在、『突撃!隣のスコイ家』(BSテレ東)に出演中

FILE 02 STAR 佐竹永太郎さん宅

ADDRESS 東京都北区

FAMILY 本人46歳 妻44歳 長女9歳

築18年 延床面積/470.00㎡(142坪)
2016年8月リノベーション竣工

DATA

ビルの入りが
くくり戸ですよ!
ワクワクする~





上/螺旋階段と吹き抜けを眺められるソファは特等席 右/オブジェのような螺旋階段が美しいリビングは、ダイニングやキッチンと一体化した空間。床はケヤキ、壁は漆喰、壁上部のガラリは真鍮、テーブルの天板はウォールナット…など、様々な素材が見事に調和している



LIVING 4F

だ円形の吹き抜けと有機的な螺旋階段が美しい空間

J R 東十条駅から徒歩 2 分の場所にある 5 階建てのビルが、佐竹永太郎さんが代表を務める「STAR」の事務所兼自宅。ビルの入り口には田中さんも驚いた、明治 16 (1883) 年製という趣のあるくぐり戸が設置されており、独特の世界観が。このビルは 18 年前にオーナーの依頼により佐竹さんが設計したもので、15 年後に自身が買い取りリノベーション。1 階はラウンジ、2 階はオフィス、3 階は倉庫、4・5 階が自邸という構成だ。

エレベーターで 4 階に向かうと、中心に螺旋階段が設置された LDK が広がっている。さっそくソファに座って吹き抜けを見上げ、「螺旋階段って、もっと単調なイメージだったけど、こんな変わった形もできるんですね。計算は難しそうだけど」「はい、難しく計算

すればできます (笑)」と、建築談義に花を咲かせるふたり。リビングの床には、長さ 7m の一枚もののケヤキが使用されている。「板として製材されたものではなく、この家のために挽いてもらいました。あえて下地を張らずに使っているのもこだわりです」と佐竹さんが説明すると、「だから、ミシミシ鳴るんだ! 味わいがありますね」と、楽しそうに歩き回る田中さん。「モダンなのに和の雰囲気もあり、随所にアンティークなものが置かれているのもいいですね」

Tanakagram



いいね! 362件

TANAKA TAKUSHI 床材は、薰ってきた木でした! かなりの大木から切り出した板で木目も綺麗! おそらく立派な建物に使われていたに違いない! ヒビが所々に入っていて、歩くとミシッと音がして、古いお寺みたいな雰囲気を楽しめる。こういう趣のある床材に憧れます!!



古いものと新しいもの、和と洋のバランスも見事!

ソファ右手の障子の向こうは子ども室。ピンクの壁は漆喰、長押 (なげし) はカシュー (西洋漆) で深い緑色に。無国籍な雰囲気を楽しみ



BATH ROOM

4F

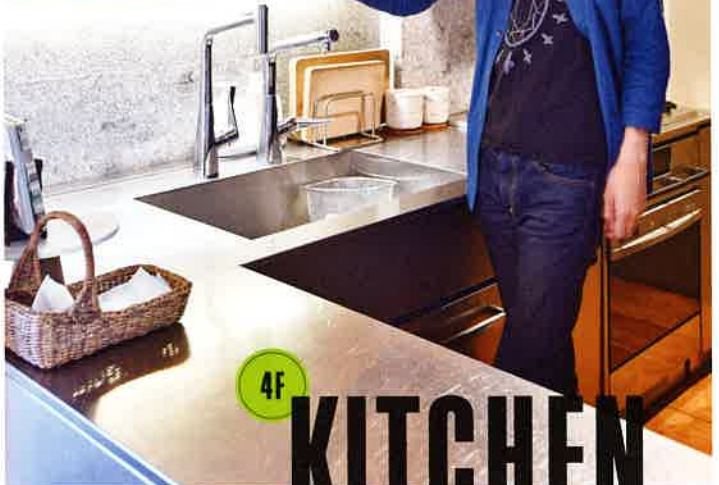
檜×コンクリートの天窓付き浴室は毎日、露天風呂気分!



外気が入ってきて気持ちよさそう〜



ママへのメッセージが貼ってあるじゃん!



4F

KITCHEN

使い勝手のいいL字型のステンレスキッチン

右ノステンレス、木、石の組み合わせがスタイリッシュなキッチン。吊り戸棚は床に合わせてケヤキに。水栓はハンスグローエ。佐竹邸は全館浄水を採用しており、お風呂も浄水なので髪も傷みにくいそう。中ノ天窓を設けた浴室。採光、通風ともに抜群で、爽やかだ。左ノワークスペースと隣り合う子ども室。田中さんは「MOMO HOME」(ZARA HOMEの箱を活用)に興味津々。「将来は建築家になれそうだな」

KIDS ROOM

4F

壁面の本棚や机、収納を扉で丸ごと隠せる子ども室



ももちゃん、もう家をつくったの?

LDKとつながるオールステンレス製キッチンは、L字型に配することで作業や配膳スペースもゆったり。田中さんが見つけた、娘のももちゃんからのメッセージが張られた戸棚の下の壁には、石を採用している。「いろんな素材が使われていますね」と感心する田中さん。奥には妻のお気に入りの水屋箆筒が置かれ、食器棚として使用されている。LDKの奥には、洗濯物を干せるテラスに

面した妻のワークスペースと子ども室を配置。LDKとは障子で仕切ることができるが、普段は広々としたワンルームとして使用しており、子ども室の気配も伝わってくる。浴室には、檜とコンクリートを採用。「天窓から外光が入りますので、気持ちがいいです。コンクリートは、あえて木の表情を感じる仕上がりにしています」(佐竹さん)と、開放的かつ温もりが感じられる空間になっている。

WORK SPACE

4F

洗濯物を干したり畳んだりするのに便利な家事室



インドネシアの雀卓って…何だかすごいな

Tanakagram

42



いいね! 327件

TANAKA TAKUSHI お風呂の壁は木とコンクリート打ち放しです。よく見ると表面が普通より粗く仕上げられてあり、ご主人曰くコンクリートを木の雰囲気近づけるために、あえて粗い型枠で仕上げているそうです。細かい気遣いが、いい味を出していました!

妻が作業机に使っているのは100年ほど前のインドネシアの雀卓だとか。奥にはクスノキのトランクがあり、ハンガーなど洗濯道具の収納に



上がってきたときの
この開放感!



BEDROOM

庭に面した寝室は
まるでリゾートホテルのよう

上ノ吹き抜けにより4階リングとつながる5階は、屋上ガーデンを備えた開放的な空間。ホール部分の床に使用されているのはアズサ。重厚感があり、味わい深い。「木にも格があって、格の高い木は時間が経っても劣化しないですね」と佐竹さん。上左ノ屋上ガーデンに面した、洗練された雰囲気のある寝室。床材には杉を使用しており、手前のアズサとの違いを体感できる。壁・天井には調湿効果がある珪藻土霧島壁を採用

印象 螺旋階段を上っていくと、寝室の外に広がる屋上ガーデンが目飛び込んでくる。「朝はまぶしくて自動的に目が覚めます」(佐竹さん)という寝室は、庭に面したホテルライクな空間。4・5階とも床暖を採用しているため、冬も快適に過ごせるそうだ。5階ホールの床にはアズサ、寝室には杉を採用している。「いろんな素材を使っているけ

ど、ちゃんと調和している。個性派集団をうまくまとめる名監督みたいだな」(田中さん)。
寝室からは、デッキテラスにそのまま出られる。「駅前だけど、ここなら外からの視線を気にせずにご過ごせますね。土があって、外の空気も感じられて…都会ではなかなかこういう空間を持ってないですもんね」(田中さん)と、屋上ガーデンの開放感を満喫した。

GARDEN

最上階のガーデンは
贅沢なプライベート空間



Tanakagram



♡📍 いいね! 357件

TANAKA_TAKUSHI 螺旋階段の形が、オニギリ型! 上から見ると、形が綺麗に見えて、階段がとってもステキなインテリアになっていました。三角形の螺旋階段なんて構造的に出来るんですね? とお聞きしたら耐久力は直感で作りました! との事! さすが建築家!

もとはサンルームだったという屋根付きのデッキでつろく。周囲の視線を気にせずにリラックスできる、贅沢な空間だ

OFFICE

アンティークをリメイクした
ミーティングテーブルも発見

【5F】



【4F】



【2F】



【1F】



【取材協力】
STAR (エスティエアー)
東京都北区東十条2-4-7
<https://starchitects.info>

「クライアントの課題を美しいデザインで解決する」をミッションにデザインチームという独特の設計スタイルで活動。個性的なホテルや商業施設など企画より幅広く手掛ける。

上/右側の壁面に造り付けたカウンタは、天板に3mのケヤキの一枚板を使用。中央部分のテーブルの天板はオーク。壁面には棚が造り付けられ、スッキリと片付いている。上右/ミーティング用のテーブルは、漆塗りのアンティークをリメイク。「昔のテーブルはいい木を使っているので、漆を落とすと木目がきれい。木と木をつなぐチギリもいい味を出しています」と佐竹さん。右/能舞台の襖を扉に使用したラウンジ。この扉に合わせて柱の位置を決めたという。扉の裏側には螺鈿細工が施されている。



1F

LOUNGE

能舞台の襖を設置した
こだわりのおもてなし空間

AFTER SHOOTING...



事務所スペースもちらりと訪問。2階オフィスは整然としていて、スタッフが漆を削ってリメイクしたというユニークなミーティングテーブルも存在感を放っていた。

1階のラウンジは、バーカウンターのあるラグジュアリーなおもてなし空間だ。カウンターは大谷石、カウンターの天板にはアフリカンチークを使用。奥のミーティングスペースには、旧家の能舞台の襖を扉として採用している。「すごいな。設計事務所とは思えないですね。何でもやってくれそう(笑)」と、圧倒される田中さん。「正しく古いものは、常に新しい」というのが僕の信念です。正しく時を重ねてきたものは、時を経ても古びない。そういうものの力を借りながら、オーダーメイドのスーツのように、住む人の体に馴染む空間をつくっていきたくて」と佐竹さん。そんな建築家の美意識を体現した住まいとなっている。

まるで、オシャレな
カフェにいるみたい!